

No 88

事務事業評価票

所管部長等名	農林水産部長 橋口 尚登
所管課・係名	水産林務課 みどり保全係
課長名	濱 本 親

評価対象年度 平成23年度

(Plan) 事務事業の計画

事務事業名	有害鳥獣被害対策事業	「主なる事業の執行状況調」における件名又は事業名	有害鳥獣被害対策事業
会計区分	一般会計		
予算の事業名	有害鳥獣被害対策事業		
事業コード(大-中-小)	17	01	14
施策の体系 (八代市総合計画の実施計画における位置づけ)	基本目標(章)	第4章 豊かさにとぎわいのあるまち	
	施策の大綱(節)【政策】	①豊かな農林水産業のまちづくり	
	施策の展開(項)【施策】	②林業経営基盤の強化	
	具体的な施策と内容	(3)森林の保全・育成	
根拠法令、要綱等	鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止の特別措置に関する法律・鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律		
実施手法 (該当欄を●)	○ 全部直営 ○ その他()	● 一部委託 ○ 全部委託	法令による実施義務 (該当欄を●) ○ 義務である ● 義務ではない
事業期間	開始年度	合併前	終了年度 未定

(Do) 事務事業の実施

事務事業の概要	目的	対象(誰・何を)	成果目標(どのような効果をもたらしたいのか)
	内容 (手段、手法等)	農業経営者(家庭菜園等小規模経営者も含む)及び一般市民	
		農林産物の被害防止、市民生活の安全の確保につながる。 シカやイノシシなどの野生鳥獣による農林産物の被害防止と市民生活の安全を図るため、猟友会々員により編成された捕獲隊に依頼して捕獲活動を行っている。 シカについては、近年、被害が著しく、有害鳥獣としての捕獲に対し、1頭あたり8,000円の補助金を支給している。 イノシシについては、銃による捕獲のほか民家の近くでは箱ワナによる捕獲も実施している。	
事業開始時点からこれまでの状況変化等	シカの捕獲数は、平成20年度まで急速に増加し、そのまま横ばい状態で減少には転じていない。 イノシシについても、大きな被害は認められないが日常的に発生しており、さらなる対策が必要である。 また、傾向として、以前は主に山間部の被害だったが、近年は中山間地域から平野部にかけても範囲が広がってきている。		

コスト・成果指標の推移

コスト	総事業費	単位	22年度決算	23年度決算	24年度予算	25年度見込	26年度見込	27年度見込
		千円	16,560	16,970	24,932	25,000	25,000	25,000
財源内訳	事業費(直接経費)	千円	11,660	12,070	20,032	20,100	20,100	20,100
	国・県支出金	使用料・手数料	千円					
		市債	千円					
		その他()	千円					
		一般財源	千円	6,760	7,002	15,304	15,300	15,300
概算人件費(正規職員)		千円	4,900	4,900	4,900	4,900	4,900	4,900
	正規職員	従事者数	人	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70
	臨時職員等従事者数		人					

成果指標 (もたらそうとする効果の数値化)	指標名	指標設定の考え方	単位	22年度実績	23年度実績	24年度見込	25年度計画	26年度計画	27年度計画
	①	シカ捕獲数(一般捕獲を含む)	頭	2,045 計画2,800	1,800 (未確定) 計画2,500	2,450	2,400	2,400	2,400
	②	イノシシ捕獲数(一般捕獲を含む)	頭	1,072 計画960	950 (未確定) 計画1,060	1,190	1,230	1,270	1,300

<記述欄>*数値化できない場合

(Check) 事務事業の自己評価

事業実施の 妥当性	①	【計画上の位置付け】 事業の目的が上位政策・施策に結びつきますか	A 結びつく B 一部結びつく C 結びつかない	A	(現状分析等) 平成20年2月に施行された鳥獣被害防止特措法に基づき、八代市鳥獣被害防止計画を策定したり、八代市有害鳥獣被害対策協議会を設立したりして、被害の縮小に積極的に取り組んでいる。 また、同法により、市町村は被害防止計画を定めて施策を実施し、国及び県は、その施策が円滑に実施されるよう財政措置を講じるなど、国・県・市の役割は明確にされている。
	②	【市民ニーズ等の状況】 市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていませんか	A 薄れていない B 少し薄れている C 薄れている	A	
	③	【市が関与する必要性】 市が事業主体であることは妥当ですか(国・県・民間と競合していませんか)	A 妥当である B あまり妥当でない C 妥当でない	A	
活動内容の 有効性	①	【事業の達成状況】 成果目標の達成状況は順調に推移していますか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	(現状分析等) イノシシは、生息調査が困難であり、シカの生息調査についても県で実施しているものの場所が限られ、成果を検証することは困難であるが、捕獲数や住民からの被害報告等から判断すると、順調とは言えない。
	②	【事業内容の見直し】 成果を向上させるため、事業内容を見直す余地はありますか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	
実施方法の 効率性	①	【民間委託等】 民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A	(現状分析等) 猟友会以外には依頼する企業や団体等はなく、会員により編成された捕獲隊に依頼して捕獲活動を行っているが、日常の仕事の合間など限られた時間に集まって出勤してもらうことになり、緊急に必要なときなど機能的な活動ができない。
	②	【他事業との統合・連携】 目的や形態が類似・関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A	
	③	【人件費の見直し】 非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費の削減は可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A	
	④	【受益者負担の適正化】 受益者負担に見直しの余地はありますか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	

(Action) 事務事業の方向性と改革改善

今後の方向性 (該当欄を●)	<input type="radio"/> 不要(廃止) <input type="radio"/> 民間実施 <input type="radio"/> 市による(民間委託の拡大・市民等との協働等) <input checked="" type="radio"/> 市による実施(要改善) <input type="radio"/> 市による実施(現行どおり) <input type="radio"/> 市による実施(規模拡充)	(今後の方向性の理由) 現在の体制では、捕獲隊の自主的な活動に頼っている状況であり、十分な捕獲活動が行われているとは言えず、成果の向上は困難である。																					
	<p align="center">今後の改革改善の取組と、もたらそうとする効果</p> 猟友会会員を特措法に基づく実施隊として編成し、市の非常勤職員として位置づけ、命令に基づいて公務として出勤し、緊急時にも対応するなど効率的に活動し、いっそうの捕獲数の向上を目指す。 また、有害獣に対する知識が豊富であることから、住民からの相談役(アドバイザー)的な活動も行う。 また、民家の近くで銃の使用が危険な地域には、箱ワナの貸出制度を充実させて被害防止を図る。																						
改革改善内容	<p align="center">改革改善による期待成果</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td align="center">○</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持				低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上			○																			
	維持																						
	低下																						

外部評価の実施	無	実施年度	
---------	---	------	--

決算審査特別委員会における意見等	(委員からの意見等)
------------------	------------